

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名：法文学部/准教授

氏 名：兼城 糸絵

授業科目名	グローバル人材育成(雲南)
研修先 (大学・国・都市名)	雲南農業大学・中国・昆明
研修期間	令和 6年 3月 6日 ~ 令和 6年 3月 15日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>本授業では、連携の重要性が指摘されている中国・雲南省において短期海外研修を行う。一般の講義では困難な「進取の精神を育む」或いは「国際的に役立つ資質を育成する」、すなわち「人間力」を養う教育を実践するため、雲南農業大学の学生との双方向の交流を通じて対象課題の国際的な関係を理解することを第一の目的としている。また、異文化を理解するだけでなく、国際的な環境の中での「日本」をより深く認識し、進取の気風にあふれる国際的能力を身につけることを第二の目的とする。</p> <p>上記の目的を達成するべく、今年度の研修では8日間の現地研修を実施した。研修期間中は昆明市および大理市においてさまざまな教育・研究・展示施設や自然資源の開発・流通施設の視察を行った。また、雲南農業大学にて日本社会に関するプレゼンテーションを行い、現地の大学生と意見交換をする機会を得た。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>事前学習では、まず教員から中国社会の基礎知識について講義を行った。そして、研修期間中に雲南農業大学にて日本社会を紹介するプレゼンテーション(英語)を行う予定であったため、事前学習の際には発表練習を行った。</p> <p>研修期間中は、まず雲南農業大学にて雲南省の概要に関するレクチャーを受講し、雲南省の地形や気候・植生の多様性について学んだ。また、雲南百薬や斗南花卉市場、昆明植物園といった自然資源の研究・展示・開発・流通施設を視察し、雲南省における自然資源の利活用について現状を把握することができた。さらに、雲南省は少数民族の多い地域として知られているが、雲南民族村の見学と大理市の視察を通じて雲南省で暮らす人々の文化的多様性について学ぶことができた。研修には雲南農業大学の学生も同行しており、両校の学生が英語を用いて積極的にコミュニケーションをとるなど双方向の交流も実践した。最後に行われた日本社会を紹介するプレゼンテーションにおいても、現地の教員や大学生と活発な質疑応答を行うことができた。</p> <p>今回の研修を通じて、学生たちは中国社会の実態についてある程度理解を深めることができたといえる。特に、中国に対する文化的バイアスに気付き、それをある程度修正することができたのではないかと感じる。同時に、日本と似て非なる環境下に身を置くことで、これまで何気なく過ごしていた日本での生活や文化を相対化することが可能になったと考えている。</p> <p>また、学生たちが中国で体験したことを適切なかたちで周囲の人びとと共有していくことで、地域のグローバル化に貢献することができる。加えていえば、今回の経験を通じて、学生たちは異文化を理解しコミュニケーションを取る能力を一定程度身につけることができた。こうした能力を身につけた学生が地域社会のグローバル化や活性化に貢献できる人材になっていくだろうと期待している。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本授業は鹿児島大学の学生が3月に雲南を訪問し、12月には雲南農業大学の学生が鹿児島を訪問するという形ですすめられている。雲南農業大学側との円滑な研修実施のためには外部資金による経済的援助が得られた方がよいと考えている。現在はJASSOの援助を受けているが、それも毎年得られる訳ではない。今後も本事業のような学内での継続的な支援事業を続けていただけると幸いである。</p>	